

作品

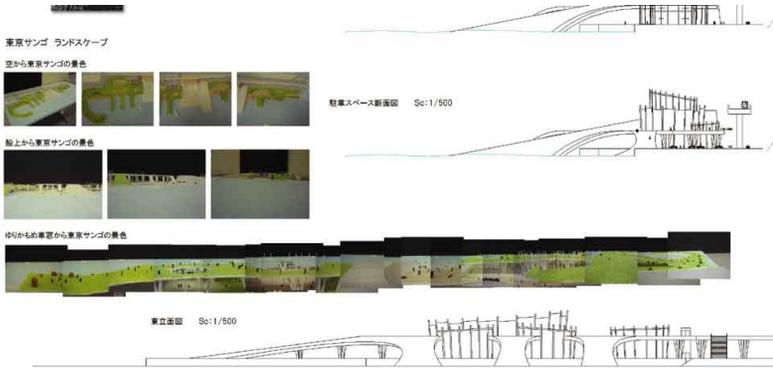


東京サンゴ

～海と陸をつなぐ場所～
「日の出地区の再開発」

神 厚志 (じん あつし)

明海大学 不動産学部 不動産学科 環境デザインコース



東京サンゴ

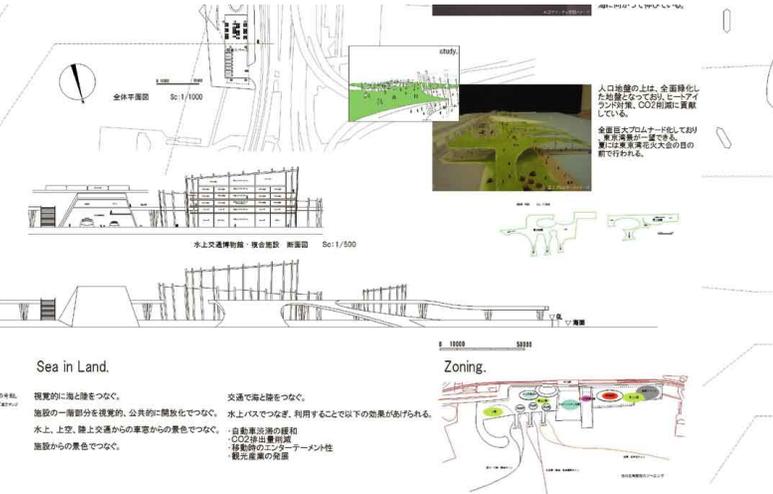
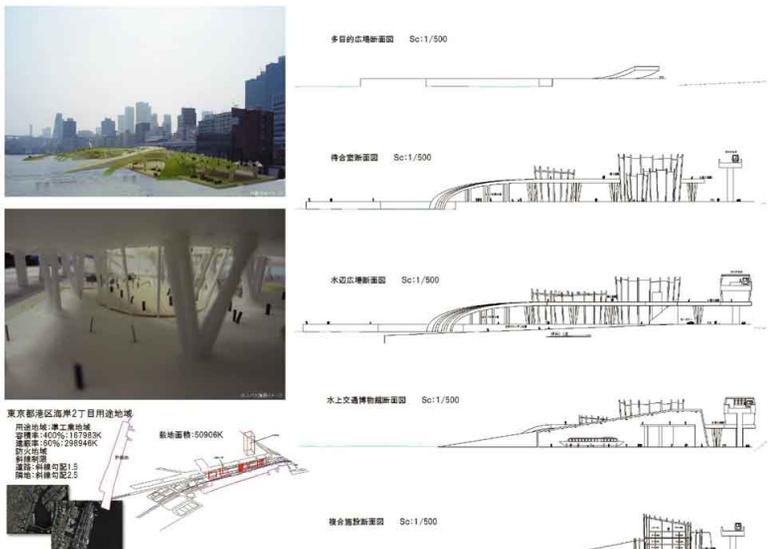
～海と陸をつなぐ場所～
日の出地区の再開発

Design point.

これまでの水辺の都市の開発の過程では、高密度、高層化により水辺空間が奪われている。また、保管施設の集合による東京湾の街並み、公共性のない閉じられた水辺としての都市空間は良質な都市環境を生み出すことができない。環境も20世紀に水上から自動車交通に替りCO2増加により大きな負荷を与えている。東京は海と陸をつなげる都市ビジョンができる面白い都市になる条件に恵まれている。ところが現代の開発はみなそれをほぎ取り潜在的な価値を殺している。東京サンゴでは、水上バス、観光バス、ゆりかもめの三つの交通の結節点という立地をいかす。ショッピングモール、水上交通博物館、水上バス施設を配置し水辺の新たな景色をつくりだす。海と陸をつなぐレクリエーション施設を提案する。

Design concept.

サンゴは海といわれ人々の目を魅了する。また、私たちの生活圏内である。そんなサンゴを建築、遊人として例え、サンゴから島が出入りするように人も多目的に出入りできる空間を東京湾景を美しく変える際のサンゴを造る。



【講評】諸外国に比べ、わが国の水際が魅力的に活用されていないと言われている。水際と建築の関わりについて、問われている今、作者は、実にシャープに、そして明快に表現した。臨場感あふれる模型からは、このまま実現して、そこにあるかのように、人、船、バスの導線が見て取れる、実に機能的でフレキシビリティに富んでいる構成だ。海と陸をつなぐこの施設は、同時に水辺環境と人の心を結ぶ場にもなる。そして都市に新たな価値を与え、更なる活況を帯びる地域になるだろう。時代性、旬の事例も巧みに取り込み、とてもまとまりのある作品に仕立てた感性は、今後を期待させるに十分だ。この緑化された人口地盤の芝生に腰を下ろし、目の前に打ち上がる大江戸の花火を是非見てみたい。

(審査員：信太義晴)

